

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：大代自治会

開催場所：大代公民館

開催日時：平成 29 年 2 月 17 日（金）18 時 59 分～20 時 55 分

参加者：自治会側【地域住民の方 26 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、杉村地域生活部長、三浦秘書課長、浅田金谷北南地域総合課長、鈴木金谷北地域総合課係長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長】

内 容

① 杉山自治会長あいさつ

- ・今日は染谷市長と地元住民との意見交換ということで、有意義な話し合いを持ちたいと思う。
- ・市長は、68 自治会をすべて回るということを知っているが、市長はバイタリティがあって、やる気がある感心している。
- ・島田市は今後、差し迫って市民会館の建設検討や庁舎の建設検討など、いろいろ課題がある。
- ・今日は、市長からの市政報告を聞いていただいて、残りは意見交換の時間がある。なかなかこうしたような市長と話をすることは無いので、この機会に質問や意見、提案があったら出していただきたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・今日で車座トークが 62 箇所目となった。68 の自治会をすべて回るということでやっているが、島田は広いということをつくづく感じている。それぞれの地域の特性や、その魅力、その課題を自分の耳でしっかり聴いて肌で感じていきたいということで、28 年度、29 年度の 2 年をかけてやってきている。平成 30 年から第二次島田市総合計画をつくろうとしている。また、中心市街地活性化計画や国土強靱化計画、土地利用計画など、これから 10 年先の設計図を描いているところである。そういった意味でも、皆様から忌憚のない御意見を伺いたいというのが、この車座トークの趣旨である。
- ・2020 年オリンピックの事前合宿誘致について、島田市へモンゴルのボクシングが決まったということが、今日の新聞に載った。昨日、大臣がお見えになり、その場で、3 月上旬に覚書を交わしましょうというお約束をした。他にも、シンガポールの卓球を誘致できないかということであたっている。ローズアリーナに空調設備がないため、できれば、国からの補助をいただきながら、そういった設備に結び付けていきたい。

■新東名島田金谷インター周辺の土地利用について

- ・島田金谷インター周辺は、84 ヘクタールという広大な土地を農振除外できないかということで進めている。これまでは、いっぺんに農振除外するのは、なかなか難しいことだったが、一度、白地にして都市的土地利用ができるようになるということで、今、国に書類が出され、皆様の御意見を聴く期間を設けているところなので、うまくいけば年度内に、もしかしたら4月にずれ込むかもしれないが、都市的土地利用が認可される目処がたってきている。
- ・今年、7億円近い予算を島田金谷インター周辺の道路などの周辺整備に充てている。平成30年以降、誘致ということになっていく。
- ・牛尾山の上も対象として入るが、牛尾山の上は埋蔵文化財がたくさんあり、これについては、企業誘致を開始する前に調査しなければならない。したがって、28年・29年の2ヵ年を掛けて、埋蔵文化財の調査を実施している。
- ・国道473号と新東名が交わる北側のところのにぎわい交流拠点について、JA大井川、NEXCO中日本、大井川鐵道及び島田市の4者連携で造っていく計画となっている。
- ・にぎわい交流拠点において、建物を建てる主体となるのは主にJA大井川となる。今の計画では、来年の5～6月頃には工事を着工していく予定。それに合わせて、島田市としては新東名の高架下について、国から占用許可をいただき、駐車場を造っていきたい。
- ・今聞いている計画については、日本一の売り場面積を誇るマルシェ、そしてレストランやカフェができる予定。
- ・大井川鐵道は、奥大井につながるお客様をそこから乗せられるように、新駅を造る予定。
- ・高速道路、鉄道、空港など、そういった様々な交通の結節点ということで、モーダルコネクトといったことができる場所にしていきたい。
- ・東京から観光バスでお見えになるお客さんについて、昔は奥の方まで入って行ってきて、川根温泉などへもたくさん行っていただいた。でも、往復500キロを越えるということで、500キロを越えるところに行くためには、運転手を2人配置しなければならなくなったため、今は奥までなかなか行っていただけない。その往復500キロを越えるところが、この島田金谷インター付近となる。ここから奥は温泉もあるので、SL、トーマスに乗っていただいて奥へ行ってもらう拠点にもなるといった奥大井につながる大井川流域のにぎわいの交流拠点にしたい。
- ・農業で地域を元気にしたいといったJA大井川のコネクトもある。大井川流域の様々な農産物をそこで売り、焼津からは魚も持ってくるといった話も聞いている。地元の方たちには農家レストランのようなものをやっていただいて、作物を作った人も、料理を作った人も、両方の顔が見えるような、そういった魅力ある場所にしたいということで、JA大井川では、全国の先進地を熱心に視察している。そういった思いがいっぱい詰まっているので、このにぎわい交流拠点はぜひとも成功させたい。
- ・金谷地域の企業誘致を進めるに当たり、企業の方たちから一番最初に聞かれることは、「雇用を満たせますか」「働いてくれる人はいますか」ということ。
- ・金谷地域、島田地域、川根地域、菊川などからも人が来ると思うので、雇用のことは心配ないという話をさせていただいている。
- ・にぎわい交流拠点ができるのだから、それに付随するような、例えばホテルや観光に資するような施設ができてくることを願っている。

■島田市民病院について

- ・3月に基本設計が完了して、その後、実施設計に入っていく段階になった。平成32年度末に完成予定。
- ・東京オリンピックと同じ年に完成する事になるので、資材や人工の高騰などにより事業費が高騰する事を懸念する声もあった。まだ正確な金額はお知らせできないが、基本計画でお示した247億円の中には納まっていくといった見通しがたっている。
- ・そういった見通しがたってきたので、市役所周辺の再配置についても検討を始めることを発表した。
- ・新病院の場所は現市民病院の駐車場となっている東側のあたりに、道路を付替えて建設する予定。
- ・地上7階建て、一部8階（ボイラー）、屋上にヘリポートがついた新病院となる予定。
- ・診療科目は現在とほぼ同じ。ベット数は445床。急性期に特化した病院として造っていく計画。
- ・心配いただいていた地盤について、ボーリング調査の結果、岩盤までは深く、そういう意味では軟弱かもしれないが、砂地ではなく、粘土質の地盤となっている。液状化というのは、砂と水が混ざって液状化するというので、病院建設予定地は、県の第4次被害想定でも液状化しにくいということになっている。しっかり杭打ちをし、土壌改良をしたうえで、病院を建設していきたい。
- ・医師については、浜松医大としっかり連携していきたい。市長就任以来、2ヶ月に1度は浜松医大に通って学長に会い、院長に会い、島田への医師の派遣をずっとお願いしてきている。4月から副院長クラスの医師が浜松医大から来ることとなり、また、10月には藤枝総合病院の副院長と若手の医師が島田に移ってきた。医師の出身大学は日本全国いろいろであるが、連携していく病院は必要なので、浜松医大としっかり連携し、医師の確保をしていきたい。

■大代自治会の人口、世帯等について

- ・大代自治会の1月31日現在の世帯数は246世帯（世帯として登録している数）、人口は774人で、高齢者人口は225人、高齢化率は29.1%となっている。市の平均が29.6%なので、平均より少し低い。15歳以下の人口は93人で人口に占める割合は12.0%となっている。市の平均は13.7%なので、少し子どもの数が少ない。市内全体と比較すると、平均的な地域といえる。
- ・春のさくら祭り、秋のもみじ祭りを含め、地域の方の結束がすごく強く、また「王子田会」の皆様によって作成される「ジャンボ干支」は、まさに全国に名を馳せるものとなり、他県ナンバーの車がたくさん入ってくるようになった。こういった地域振興はまさに理想とするところであり、大代地区の皆様に対しては敬意を表したい。
- ・インター周辺が整備されてくると、大代まで車で10分しかかからない。わずか10分で、都会の人達にとっては、うらやむ景色がここにある。河村家もある。これを外に売り込んでいくといった意味では、これからインター周辺が変わっていくと、大代地区は外から入ってくる人も大勢増えていくと思う。

■金谷庁舎跡地について

- ・金谷庁舎の問題は、ゼロベースに戻っている。最初、市民病院に療養病床が無くなるので、金谷庁舎の跡地に療養病床を兼ねた病院ができないかということで検討した。しかし、志太の医療審議会にかけ、承諾が必要である中、志太榛原地域に療養病床と言われる病床が1,060床あり、埋まっていないといった現実があり、審議会の中では、その1,060床の病床数は適正な規模だという回答があり、療養病床を兼ねた病院は難しいといった結論となった。
- ・今後、どういうものを造っていったらいいのかということについては、今後みなさんのご意見を聴いていきたいと思っている。
- ・金谷庁舎の跡地、または、みんくるに支所機能を一つに集約したらどうかと思っている。近いところに支所があれば便利ではあるが、旧金谷町と五和と別々になっていってしまうような気がする。今、金谷庁舎のある場所は、五和と金谷の融合の地だと思う。そういったとことに、支所機能を一つにまとめて、金谷は一つといった形をしっかりとつくっていき、北支所、南支所は、地元の方たちが使いやすい形にしていってほしいと、今考えている。しかし、金谷庁舎の跡地については、まだ何も決まっておらず、具体的にどのようにして欲しいと、お話を聞いていく段階ではない。

■道路整備について

- ・国道一号島田金谷バイパスの4車線化の工事を実施している。橋脚は大分できている。4車線化すると、今の形では4車線で降りることができないので、大代インターの付け替えしなければならない。大代インターを降りたところの473号線は、大代インターから新東名の島田金谷インターまでの間の4車線化を実施する工事も着手している。
- ・御前崎方面から北上する473号線は、倉沢ICから菊川ICまでを急ピッチで工事を実施しており、菊川ICはフルインター化の工事に着手している。
- ・焼津森線から出て、473号線にぶつかって、島竹下線に入る変則の交差点改良について工事を始めていく。その工事に合わせて、島竹下線の拡幅工事を実施していきたい。

■金谷中学校跡地周辺について

- ・平成20年に、島田市と県とで、金中跡地にメッセを造るということを約束したが、その後、そのままとなっている。
- ・一昨年、アイデアコンペを実施。全国から24の応募作品があり、全体を通して得たコンセプトは、「癒し、健康、食」である。
- ・そういったことを踏まえて、昨年は県の有識者会議から、事業の方針といった形でご提案をいただいた。
- ・ことしは、民活を活用した事業コンペまでもっていきたいということで、マーケットサウンディングといった形で、どういった需要があるか、どういった可能性があるかといった調査を進めている。
- ・お茶の郷は昨年6月に県へ移管し、来年3月頃「ふじのくに茶の都ミュージアム」としてリニューアルオープンする予定。県の施設となるので、島田のお茶が、これまで以上に全国へ、そして世界へ発信できる基地となっていくと思う。
- ・金中跡地と合わせて、回遊性を持たすために、幅5m近い歩道も整備し、交差点もまっすぐに改良したので、空港からインバウンドのお客様に寄って

ただける場所にしていきたい。

・牧之原公園について、夜景遺産ということで全国的に認定を受けている。今後、新しいトイレの整備、展望台を広くしたり、売店を地元の方たちにやっていただけるような形にしていきたい。

■人口減少について

・今後、人口は徐々に減っていき、今の 10 万人の人口は、2040 年には 8 万 6 千人くらいになるのではとされている。そうした中、働く人も徐々に減っていくので、税収も減っていく。

・昔のように、税収も増えて、皆さんの給料も上がっていくといった時代ではなくなった。

・今後は、お金を使うときに、賢く選んでいかなければならない。

・世代間で負担しなければならない学校や病院はあるが、将来の若い世代に大きな負担や借金は残したくない。

・今後は、子育てや教育に力を入れていかなければ、若い人達は住んでくれない。

・島田は、18 歳から 20 代前半の方たちの人口は少しずつ減っているが、子育て世代は、わずかだが増えている。

・島田で若い人達を増やすのなら、そのターゲットは子育て世代の人達だと思う。そのためには、今までも子育て支援を充実させてきたが、尚一層の施策が必要であり、教育分野でも、ICT の活用として、タブレットを導入する授業やプログラミング、子育て中のお母さんが家で内職ができるようなクラウドソーシングといった仕事を推進する施策を、今後 5 年間に掛けて島田と藤枝とで実施していく協定を結び、国からも地方創生枠で交付金をいただく。

・人型ロボット（ペッパー）が 4 月から島田市役所に入る。カスタマイズをしっかりとしたものが入る予定。

■様々な課題に対して

・今後、公共施設がどんどん老朽化していく。

・高度成長期に、道路も橋も建物もいっぺんに造った。昭和 58 年には学校を 6 校造り、おおるりも造った。

・一度に造ると、一度にダメになっていく。こういった施設を、長寿命化し、長持ちさせて使っていくことや、今後の公共施設の維持管理において、今のままの数が保てるかということも公共施設白書ということで考えた。その結果、今後 40 年掛けて、21%は削減する方向となった。10 年で 5%ということになる。

・今、島田市で持っている公共施設については、276 施設、663 棟あり、これを維持管理していかなければならない。道路について、島田市道だけで 1,180km ある。島田市が管理している橋が 1,152 橋ある。笠子トンネルの天井板落下事故のあと、すべて 5 年に一度点検することが法律で義務付けられた。点検するだけでなく、悪いところは修繕が必要になる。

・これまでのように、新しいものを造るために国の予算がどんどん使われる時代ではなくなった。

- ・国の借金が1066兆円、国民一人当たりの借金が840万6千円。医療、介護、福祉にもお金がかかるようになって、土木費がどんどん削られてきている。
- ・一方で、若い人達にここに住んでいただくような施策を進めていかなければならない。年配の方たちには、健康で、安心して生活していただけるような施策を進めていかなければならない。そして、稼ぐ拠点に対しては、しっかり投資していかなければならない。
- ・市の状況をしっかりお示ししながら、一緒に考えていきたい。
- ・今は、どんどん規制緩和し、民間がやりやすいようにお手伝いする事が行政の仕事になってきている。その一つとして、蓬莱橋にお休み処や物品販売所ができるが、このようなことは、これまでだったら大井川の河川敷ということで、国交省から許可されることはなかった。
- ・島田市も、民間の方々がやりたいということに対しては、できるだけお手伝いしていけるような島田市の運営をしていきたい。
- ・昔は、行政に任せておけば何とかなるといった時代だったが、今はそのような時代ではなくなった。行政も、優先順位をつけて事業をやっていくが、ここに住んでいて良かったという気持ちを持っていただくためには、地域の目が行き届く地域社会でないとならない。高齢者が安心して過ごすためには、周りの目が必要である。そういう意味でも、地域の課題を地域の皆様方と一緒に解決できる島田市をつくりたいと思う。
- ・六合の道悦島では、1時間利用券500円、ごみ出し1回150円券をつくり、援助が必要なお年寄の方などはこの券を買って、掃除、草刈りなどをお願いできるといった、地域で助けあう仕組みを始めている。
- ・地区の公民館で、地域の方たちが、放課後に帰ってきた子ども達を週に1～2回見ている地域もある。
- ・湯日小学校について、学校から放課後児童クラブまで遠いといった課題に対しては、地元の方たちがローテーションを組んで、子供たちを放課後児童クラブまで送ってくれている。行政はガソリン代や車代として、お礼を払っている。
- ・それぞれの地区で様々な課題があり、行政もしっかり対応していくが、皆様にも地域で出来る事をやっていただき、より一層暮らしやすい地域をつくっていかれたらと思う。
- ・子どもの数が減り始めたのが1975年から。しかし、寿命が長くなったので、全体としての人口は減らなかった。そうした中で、日本中が、超高齢社会、少子化が進んでいると気が付いたのは3年前。
- ・消滅可能性都市という言葉が出て、40年後には、今ある1700の自治体の896は消滅して無くなっているかもしれないというセンセーショナルなレポートが出て、一気に人口減少が日本中の大きな課題になり、地方創生の流れができた。
- ・地方創生の目的は、東京に一極集中している人口を暮らしやすくして、子どもを産み育てやすい地方に戻して、できるだけ早くに人口減少をいくらかでも早い時期にフラットな状況に持っていききたいというための施策が地方創生である。それを一生懸命やっているが、3年経っても東京への一極集中はまったく変わらない。
- ・平成29年度からになるが、今議会で議決をいただければ、空き家をリフォームして新しくそこに住む人には、200万円まで補助金を出す制度を始める。これは、市外からの人だけではなく、市内から市内へという人も含めて対象とする。空き家がどんどん増えてきている。新しい家を建てていただくのも良いが、今あるものを活用して、街中に若い人たちに住んでいただけたら良いので、そういった意味で、若い人たちに空き家を活用してリフォームして住んで

いただくための制度である。

■平成 29 年度当初予算について

- ・島田の北部地域を対象として、光ファイバーを平成 29 年度中に敷設して、平成 30 年度には皆様に使っていただけるよう進めていく。
- ・道路や橋梁などの都市基盤整備について、平成 29 年度は 25 億 8 千万円を充てていく予定。
- ・平成 30 年 4 月までは、待機児童をゼロにできるよう進めていきたい。今年の秋までに、0～2 歳の定員を 82 人増やしていく。
- ・健康増進に対して、10 億 5 千万円の予算をつけてやっていく。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■</p> <p>①せっかくインターチェンジ周辺を整備するなら、長泉にがんセンターがあり、浜松に浜松医大があるので、ここに国規模の病院を持ってきて併設して地域医療の病院を造ってはどうか。</p> <p>②五和駅から新東名の島田金谷インター入り口までは 4 車線化するという話が出たが、五和駅から国一バイパスの大代インターまでの 4 車線化の話が出ない。また、にぎわい交流センター、バイパスの 4 車線化、大代インターの拡幅は同じ時期に実施するのか。</p> <p>③猪を駆除してくれた人たちが、ボランティアで肉をくれる。それを童子汁として童子沢親水公園での桜まつりやもみじ祭りで販売して人気があるが、猪肉の販売が確立されていないと聞いた。</p> <p>④童子沢親水公園のトイレについて、右岸側の駐車場のトイレはそのまま使えるが、公園内の身障者用と女子トイレが 3～4 年前から使用禁止になっている。上水が通ってないということで、市の担当者に言わせると、設計が良くないから直せないという返事だった。たくさんの方が訪れるのに、そのまま良いのか。</p>	<p>●</p> <p>①国規模の病院ができたらいと私も思う。しかし、県も医大を誘致しようとしてもできなかった。浜松と長泉の間の静岡に置くことでさえも、国の計画が無いし、県も断念せざるを得なかった。国規模の病院の誘致については、国の計画もないことから、なかなか難しい状況である。</p> <p>②473 号線の五和駅から北および南の 4 車線化、インターの付け替え等については、同じ時期に実施されない。その年について予算に基づいて、順番に実施していくのが現状。社会資本整備総合交付金についても、昨年度要望したものに対して、52%しか予算がつかず、新規の工事が後回しになってしまうため、同じ年にいっぺんにできるということはない。国や県と協議しながら、順番にやっていくしかない。</p> <p>③ジビエについて外に売る手段がないということについて、11 月から 2 月までが狩猟の時期となっており、その時期は、1 頭あたり 3,000 円、それ以外の時期については 1 頭あたり 18,000 円の駆除費を市は払っている。しかし、捕まえたものを肉として売れるような場所を造れないかということで、島田、藤枝、焼津、農協もからんで、2 年以上協議しているが、なかなか採算が合わないということで、ジビエの屠殺場を造るのは難しいと</p>

		<p>いう話になっている。採算に合わせるためには、猪の肉を100グラムあたり600円で売らなければならない。ジビエを売るのなら、ホテルだとか、地域の観光の目玉として、そういった料理を提供できる場所を造っていかないとならないと思う。そういったものの一つとして、にぎわい交流拠点にもつながる。だから、そういう場所を増やしていきながら検討していきたいが、検討すればするほど、1市でやるのが難しいし、広域でやっても、黒字経営が難しいということがわかっていること。島田では、11月から2月の間に、500頭くらい捕まるが、病気があったり、寄生虫がいたり、鉄砲で撃たれたりすると、食肉にはできないということで、食肉に適するのは、全体の1割程度だということであり、しかも、亡くなってから3～4時間以内に加工しなければならないという条件を満たし、販売ルートがあって、はじめてジビエが食肉として成り立つ。諦めているわけではないが、とても難しい状況ではある。これからも方策は探していきたい。</p> <p>猪は住民票を持っていない。捕まったところの市町がお金を出すことになるため、猪の対策はもう少し県が主体となってやってもらいたいと思う。</p> <p>④童子沢のトイレの件については、状況を担当が現場で一度見させていただいて、どういう状況なのかということ、自治会長さんへ報告させていただく。【検討事項1】</p>
2	<p>■確定申告について、歩歩路が申告会場となったが、駐車場が無く、不便である。以前は、金谷の人は旧役場でやってくれていた。</p>	<p>●確定申告を歩歩路でやることを知ったのは今年に入ってから。税務署長へも電話し、歩歩路では駐車場が無いとお話ししたが、税務署長は、会場についてはもう決めたことなのでというお返事だった。先日も税務署長とお話をしたが、最近はe-Taxを使って申告する方が6割ということである。申告に来る人の数は8,000人くらいとのこと。今年の様子を見て、是非改善してもらわないと、せっかく市役所の駐車場が広くなっても、そこから歩いていくのは大変だし、歩歩路の周辺には十分な駐車場が無い。税務署長は、おおりの1階よりも歩歩路の方が広いので、ホールの中で待ってもらって手続きをしてもらうことができるから歩歩路を会場としたと言</p>

		<p>っていたが、駐車場が無いため、意見としてははっきり言っていきたい。</p>
3	<p>■子育て支援の問題だが、医療費について、今は、中学生までは医療費の助成が市からあるが、静岡県内では、高校まで助成している自治体もあると聞く。このことについて、島田市としてはどのように考えているか。</p>	<p>●今、島田市では、中学生まで医療費を1回500円、月2,000円までを負担いただき、それ以上は市が助成している。そうした中、競うようにして、医療費を無料化するという流れがある。島田市も、あと1億円から1億5,000万円くらいあれば無料化できるのだと思うが、お金の問題ではなく、考えなければならないのは、医師会からは、風邪薬を買うよりも、受診した方が安いとなると、医師が疲弊してしまうというお話をいただいている。また、もう一点は、単なるサービスではなく、親を親にしなければならないと思っている。これは、いろいろな社会問題が起こる中で思うことは、子育て支援も大事だが、親が親になるための支援をしないと時代になってきた。そういう時に、タダなら良いのかということを考えなければならぬと思っている。もちろん、非課税の方からはお金をいただけない。医療費を無料にすれば、どこかを削らなければならない。一つ例を挙げれば、給食費の無料化について、給食費は材料費しかもらっていないが、材料費だけで、年間4億2千万円かかっている。この4億2千万円について、給食費をタダにするということは、その分、何かを削らなければならないことになる。これは、どこの町でも同じこと。この4億2千万円があったら、私は、教育現場にもっと支援員をつけたいと思っている。また、ネイティブの英語を話す外国人をつけたいと思うし、タブレットを買って、子どもたちの教育に使いたいと思う。だから、給食費は、材料費だけ払っていただきたいということが今の私の考え。医療費も、高校生まで助成を広げるかということについては検討の余地があると思うので、ご意見として拝聴したが、まったく無料化することが良いかということについては、タダが良いというだけではないという考え方を持っていてやるところ。</p>
4	<p>■焼津森線の歩道について、道路については広がっているが、途中から歩道が無い。カーブが多いが、道幅が広いということは、車がかなり</p>	<p>●焼津森線は、県が管理している道路であり、年に何度も県の交通基盤部へ要望活動に行って、焼津森線についても要望活動をしている。また、金</p>

	<p>スピードを出している。今は制限速度が 40 キロとなっているが、ひどい場合は 80～90 キロくらいのスピードが出ていて、例えば 60 キロで走っていても追い越されるような状況。2月13日から道路の整備をしてもらい、黄色い車線を引いてもらったが、一部だけなので、できれば、黄色い車線を全線に引いてもらえれば、スピードを出して追い越しをしていく車もなくなるのではないかと。また、童子沢へ行く道も歩道が無い。</p>	<p>谷から川根へ行く 473 号線の山道をまっすぐにしてほしいというのが住民の方たちの悲願であり、その要望をたくさんいただくが、それもままならない。要望活動は続けていても、歩道の整備だとか道路の拡幅などは、優先順位がなかなか上に上がってこないというのが現状ではあるが、焼津森線のこの件については、日頃から県への要望活動の中にも入っている。県の言い分は、3m ちょっとしかないような交差できない道路は、拡幅したり、待避所を造ったりしなければいけないが、広い道路については、黄色い車線にしても、歩道にしても、やれるとしても 1 年に 100m ずつとか、そのような状況となっている。今日のお話は、県の島田土木事務所へしっかりとさせていただく。</p>
<p>5</p>	<p>■島田市緑茶化計画について、明治に、牧之原開墾方が入ってきて、大きな茶園が造成されたが、そういった近代茶業にかかわってきた人たちが歴史上の有名な人たちなので、そのあたりを物語化してブランド化していくということを、是非やっていただきたい。また、牧之原台地というシチュエーションが、遠くから来た人たちには、山があるけど、まっ平だということで、すごく不思議に思うようなので、その風景を使って、できれば茶の聖地として、明治初期の歴史を物語化して、茶をブランド化し、緑茶化計画に資するものにしていくということを考えていただきたい。</p>	<p>●島田市緑茶化計画のコンセプトブックがもうすぐ各家庭に届くと思う。緑茶愛に注目して、これを果てしなく高めることで、まちも人も元気になるという仕組みをつくらうとしているのが島田市緑茶化計画ということになる。中條景昭が幕臣 800 人を連れて牧之原台地に入ったのが明治維新のすぐ後だった。その指示をしたのが勝海舟だったというのが、千葉で古文書が出てきてわかった。そこには勝海舟の直筆で、牧之原台地に入植した幕臣達に励ましの言葉がたくさん書かれていた。したがって、勝海舟も含めて、牧之原台地、お茶のブランド化を島田から始めようということで、蓬萊橋のところに勝海舟の銅像を牧之原台地に向けて建てるということで話が進んでいる。これは島田の茶振協の予算で銅像を建てて、お茶の歴史と勝海舟の繋がりを広めていこうということ。この茶畑の景色は、私たちは見慣れているが、外から来た人たちにとっては大変魅力的である。お茶の聖地という話があったが、3月9日～15日まで渋谷の LOFT でショップを構え、島田の映像を流し、外のスクリーンに島田の映像を流したりして、島田のシティプロモーションを進めていく。緑茶をこよなく愛し、緑茶をおいしく入れられて、おいしいお茶がわかる市民の住んでいるまちということを、しっかりこのまちのブランドにしていかなければならないと思っ</p>

		ている。
5-1	<p>■勝海舟もそうだが、山岡鉄舟、坂本竜馬を斬ったとされる今井信郎、伊佐新次郎など、皆さんが好きな歴史と直結している人たちがたくさんいるので、是非有効活用していただければと思う。</p>	<p>●了解した。</p>
6	<p>■五和小学校の校庭にサッカーゴールがあるが、市の台帳に載っていないが、少年団のものでもないし、少年団では使っていない。腐食がひどくて、他県でも転倒による死亡事故が起こっている。大至急、子どもたちが使えるものに交換してほしい。</p>	<p>●教育委員会へ現場を見させる。本当に危ないものは、すぐに対応しなければならない。すぐに調べさせる【検討事項2】</p>
7	<p>■コミバスについて、乗らなければ廃止すると言っているように思ってしまう。利用したい人は確かにいる。大代で利用したい人を登録して、その人たちに例えば月2,000円分のタクシー券を配るとか、川根で民間がやっているようなものとか、使い勝手の良い方法が無いか。これは、市の仕事が増えるから嫌なのか、タクシー会社の仕事が増えるから嫌なのか。このことについて、班長会で話が出た。</p>	<p>●コミバスは、2億4千万円ほどかけて運行している。しかし、今回調べたところ、月に1回でも乗る人は、市内全域で3,400人くらいしかいないということがわかった。毎日利用している人は767人しかいない。例えば、ごみの収集については、14億3千万円くらいのお金をかけているが、10万人で割れば、1人あたり14,300円となる。しかし、コミバスは、月に1回乗る人で考えても、1人あたり70,600円くらいかかっている。コミバスの使い勝手が悪いということで、みなさんの都合の良いように1便増やすと650万円くらいかかってしまう。このコミバスのあり方について、自治会長のところへ資料を持って説明をした。今後考えるきっかけづくりという説明をした。あつたらいいのは間違いないが、ほとんど利用したことが無いという人がたくさんいる中で、タクシー券を配ったらいいじゃないかということだが、このタクシー券も、例えば、月に1回市民病院に行くとして、片道1,000円（月2,000円）を負担すると、1年間24,000円になる。これを75歳以上の方だけとすると、大体15,000人以上いるので、これを計算すると3億6千万円かかることとなる。今、障害者手帳を持っている人は、1回1,000円まで助成されるタクシー券をお配りしている。今後、どういう形でこのバス事業をやったらいいのかということで、29年度はデマンド型の実証実験を短い期間でもやってみようと思っている。皆さんすべてに満足いただくことはできないが、すこしでもより良い使い方ができ</p>

		<p>るように見直ししていかなければならない。そのためには、いただいたご意見をもとに、改善を重ねていきたいと思っているので、是非、ご意見を聴かせていただきながら、コミバスがどうあるべきかということを考えてもらいたい。買い物難民や交通弱者と言われている人たちがいるが、買い物難民と言われる方たちに対しては、注文に応じて食料品などをお届けする方法もあるし、郵便局も一人暮らしのお年寄りの安否確認や健康の見守りを事業として実施するようになった。様々なサービスが今後立ち上がっていくのではないかと思う。コミバスも、10年先は自動運転のバスが走っているかもしれない。皆様と一緒に、コミバスの今後のあり方というのをしっかり考えていきたい。資料が必要なら、生活安心課へ言ってほしい。</p>
7-1	<p>■コミバスの時間に、個人個人の時間を合わせるのは、なかなか難しい。</p>	<p>●市としては、15人くらいのワゴン車と、ガソリンと、人工代は市が出すので、皆さんの地域で、それを回すルートを考えて、回す人を雇ってもらおうといった形で、地域内バスを走らせてもらうというやり方について、川根や伊久美で話題になってきている。そのような方法もあるので、皆さんで考えてもらって、意見をいただきたいと思う。コミバスがどうあれば良いのかということ、皆さんと一緒に考えていきたいと思う。</p>
7-2	<p>■デマンド型ということで、掛川市などでは、時間に合わせて、集会所に乗る方が集まってバスにみんなに乗っていくが。</p>	<p>●デマンド型は、利便性もあるが、一方で予約をしないと行かない。また、予約に対してどのように回していくかといったことをコーディネートする必要があり、電話番号も必要になる。こういったことも合わせて考えていかなければならない。牧之原市などは、半年間、コミバスをやったが、乗る人がいなかったため、すべてやめてしまった。</p>
8	<p>■敬老会の対象年齢の引き上げについて、75歳から80歳へ、いきなり5歳上がってしまった。私としては、78歳くらいが妥当ではないかと考えるが。</p>	<p>●このことについては、説明の仕方が悪かったと思う。戦後の平均寿命は52歳だったが、今、女性の平均寿命は87歳である。そうなってくると、昔のお年寄りに比べると、今は若くて元気であり、何歳から敬老というお祝いをすべきかということについて議論がある中で、高齢者がすごく増えてきて、会場に入りきれないといった地域が続出しているということもある。国も、高齢者を75歳以上にしようという動きがある。今、75歳以上</p>

		<p>の方は後期高齢者となっているが、後期がなくなって、75歳からが高齢者となり、65歳から75歳までは支える側というように変えていこうといった流れがある。そうした中で、今は75歳から敬老の日のお招きをしているが、敬老という意味を込めるのなら、だんだんと80歳になってからかなといった思いを持っていることは確かである。しかしながら、75歳以上の方の名簿を出さないといったことは一切ない。経過措置については、どのようにするかといったことを検討させている。それぞれの地域のやり方を考えていく中で、今は75歳以上でやっているけど、10年経ったら、どこも80歳以上でやっているかもしれない。その判断は、それぞれの自治会に任せてもよいかと思う。先日の説明の仕方も悪かったと思うが、敬老の祝い金にかかるお金も、高齢者が多くなって3倍に増えた。そういった中で、敬老のお祝いを何歳からにするかといったことは、皆さんの意識が変わっていくといったことと合わせながら、緩やかに変更していけたらと思う。</p>
9	<p>■空き家の件だが、大代は危険区域（がけ崩れ）となっているところがあり、空き家を貸す時に、承諾が必要となると聞いたが、先ほど説明いただいた空き家をリフォームして新しくそこに住む人への補助は、こういった危険区域の空き家については対象になるのか。</p>	<p>●がけ崩れの危険区域に、新しく家を建てることはできないが、そこにある空き家について、新しく住む人に、ここが、がけ崩れの危険区域だということをお知らせしたうえで、本人が納得し、そこに住んでもらうことはできると思う。先ほど説明した空き家のリフォームへの補助制度について、がけ崩れなどの危険区域を除くといったことは聞いていないが、この件については、確認してお知らせする。【検討事項3】</p>
10	<p>■車座トークで今までに62箇所回ってきたということだが、同報無線で、火が発生しているという情報を流した方が良いのではといった意見は出なかったか。御前崎市や牧之原市は、火事の情報と同報無線で流していると聞いている。今は、家の中にいると、隣が火事でもわからない。そういうことも考えると、火事の情報と同報無線で流した方が良いのではと思う。</p>	<p>●昔は、金谷地区でだけ、火が発生すると同報無線で流していたので、それをやるべきだといった意見が出たことはある。火事については、昔と事情が違い、昔は火が発生すると、街中に延焼して大火になることもあった。今は、消防署がサイレンを鳴らしながら行くので、大体の場所がわかるということと、個人情報保護の観点から、同報無線で情報を流すということに対して、批判的な考えを持った方たちも大勢いる。時報を鳴らすのでさえ、子どもが起きるだとか、夜勤明けで寝ているのにうるさいだと</p>

		<p>か、そういった意見がたくさん出るような時代になった。そういったことから、火事の情報を同報無線で流すといったことは、今は行っていない。同報無線で火事の情報を流すかどうかということについての意見が出るのは、金谷地域でのみ2回出された。昔のように流してほしいといった意見が出た。消防団へは、火災の緊急情報がいち早く飛ぶようになっており、消防も、昔と比べると、高機能の装備をして、いち早く駆けつけていくこととなり、初期体制ということに関しては、消防も広域化しているので、応援もどんどん来ることになるなど、消火体制については、万全を尽くせることとなる。また、消防自動車が出動するタイミングで、初めて行政にも情報が入ってくるので、流すタイミングとしては、消防車が行くのと変わらない。火事の情報を、まち全体にお知らせすることについては、今は行わない方が良いのではと考えている。</p>
11	<p>■大代の方へ入ってくる道がずっと1本道（焼津森線）であり、悪い人たちが入ってくることも考えられるので、防犯カメラをどこかへ付けてほしい。ジャンボ干支などの影響で、たくさんの人が入ってくる。万が一、干支が燃やされたなんてことがあったら大変である。</p>	<p>●各コンビニや、様々なところに防犯カメラが設置されていて、島田駅だけでも8か所防犯カメラが設置されており、通った動線がすべてわかるといったように、皆さんは見張られている。確かに、防犯カメラはたくさんあるといいといったご意見も伺うが、必要な箇所には防犯カメラが設置されつつある状況であり、今後も増えていくと思う。人が増えることと、どんな人が入ってくるかわからないといったことは、表裏の話である。道が良くなって、出入りする人が増えると、軽犯罪も増える。こういったことは、防犯カメラだけで解決できることではなく、もっと大切なことは、地域に住んでいる人たちの目が行き届くような状況をつくっていただくことであるため、ぜひ、大代地区の皆様がそういった暮らしをしていただけたら良いと思う。皆さんが愛している干支が傷つけられるなんてことを考えたくはない。カメラで犯罪が起きた後の追跡はできるかもしれないが、犯罪は防げない。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子



④検討事項に対する対応

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
1 検討事項 1	<p>●</p> <p>④童子沢のトイレの件については、状況を担当が現場で一度見させていただいて、どういう状況なのかということ、自治会長さんへ報告させていただく。【検討事項 1】</p>	<p>■童子沢親水公園は、春から秋を通して市内外から多くの利用者が訪れております。普段の休日では支障なく利用できますが、ゴールデンウイークや夏休みなど特に多くの人が集まる時には、公園の上流部に設置されているトイレにゴミが詰まり、機能不全となったり浄水が不足するケースがたびたび発生したことから止む無く使用禁止の措置をとっております。</p> <p>この対策として混雑時には駐車場入り口に交通整理人を配置するほか、トイレの処理能力を向上させるために水のタンクの増設工事も行いましたが問題の解決に至りませんでした。このためトイレの構造上の問題があると思われますので、水廻りの配管調査等の実施により原因を確認でき次第、速やかに対処していきたいと考えます。</p>

<p>6 検討事項2</p>	<p>●教育委員会へ現場を見させる。本当に危ないものは、すぐに対応しなければならない。すぐに調べさせる 【検討事項2】</p>	<p>■現在、使用している4台のサッカーゴールは学校の所有であることを確認しました。学校内の遊具・体育用具は年2回点検を行なっており、五和小のサッカーゴールは点検報告で錆びの指摘がありますが、再塗装を行なうことで使用が可能ですので、早急に補修工事発注をしていきます。なお、腐食して使用禁止にしていた2台は今年度に廃棄処分しました。</p>
<p>9 検討事項3</p>	<p>●がけ崩れの危険区域に、新しく家を建てることはできないが、そこにある空き家について、新しく住む人に、ここが、がけ崩れの危険区域だということをお知らせしたうえで、本人が納得したうえでそこに住んでもらうことはできると思う。先ほど説明した空き家のリフォームへの補助制度について、がけ崩れなどの危険区域を除くといったことは聞いていないが、この件については、確認してお知らせする。 【検討事項3】</p>	<p>■中古住宅購入奨励金事業は、中古住宅の流通を促進するとともに、子育て世代の住宅取得を支援し、島田市で安心して子供を育てていただくことを目的としています。</p> <p>土砂災害防止法の特別警戒区域については、建築を規制する区域であり、市民の生命及び財産を保護する観点から区域内の居住を推進ことはできないため、区域内の中古住宅は対象外となります。</p> <p>がけ地に近接する住宅(例：土砂災害防止法の警戒区域等)につきましても、様々なケースが考えられ当該事業の対象とならない場合がありますので、事前に建築住宅課までご相談していただければと思います。</p>